74

8.6-9 PL=L

8·6－8·9 アピール

戦後30年を経た今日の日本に於て、一瞬のうちに数十万の人間を一灰の物質に転化せしめた原爆が炸裂した広島・長崎の地に我々は何を目撃するのであろうか。

警官や機動隊、警備員から市の職員まで動員した警備の中で、'74年原爆犠牲式典は必死に祈り続ける一人の老婆を突き出して時刻どおり開始され、そしてとどこおりなく終った。

国際平和都市としてこの世の平和の"象徴"として一個の人間の営みはどこかへ追いやられて広島は存在する。

国家・政力に見捨てられ、民衆から見捨てられ、戦前戦中に続く差別にうめく朝鮮人被爆者や沖縄の被爆者たちが1945年8月の凍結した時間の中に生きている。

その人間のうめきは内に重く閉じ込められ、開放されることもなく、いつまでもきしみ続ける"水爆実験があって東京に死の灰といわれるものが降ってきた。『ざまを見るがいい』と私は思った。死灰にまみれて、ぞくぞくと死人で見るとよい。そうすれば人間の"魂"が現代の原子力に対して抵抗しなければならないか、いくらか納得できるかもしれない"と大田洋子に吐かせしめた。我々は今、8·6－8·9へと自己の身を置くことを通じその人間の厚味と向かわしめる出発を

戦後、海を渡え経済大国の名の下に不況・倒産を根底とした"繁栄"と"平和"の国家幻想にすっぽりといだき込まれている日本は、明治以降アジア諸国への侵略を行い続けその略奪物としての朝鮮半島の人民が　　ような労働力としてこの日本に連れてこられ、そしてなぜ朝鮮人被爆者が存在するか、なぜ広島と長崎に原爆が投たされねばならなかったのか。

今ここに我々はどんな意味に於ても確かな身構えを持ち、存在としての人間の中からその底深く今所がうめきを発する基底に水下降し、そこを直撃する日本という国家の現実(も界)に対峙しなければならない。そして人間としての自身の中から起す行為として'74年8·6－9年間撮影行動を開始する。

広島ノビール

"~~繁~~栄ゆれど山河も町も破れて無し"

'45年、一瞬の閃光によって瓦礫と化したヒロシマ。人の肉も心もカタカタに崩じどんよりたれこめた空はすすに陰惨な屍の街(地獄)の悪夢の風景であった。しかし敗戦は新憲法の平和憲法の名の下に被爆都市(軍都)広島を平和都市へと逆立させすり替えてしまうのである。

白く塗られたビルと、流行の華やかさの中を一定の速度で人・車・電車の往行するハ丁堀、それとは対蹠的な相生スラム、今被爆の怨恨を背おったまま繁アパートのコンクリート壁の中に押し入められようとしている。スラムは以前の手創りの共同体的なものではなく、風が吹きぬけるごとく残存するのである。

また海田、草津は都市化の波の前で、北海道伊達(火力発電車)下北(コンビナート)大牟田(チッソ)と変ることのない国家の野望の下に臨海工業地帯建設と、自然、生活の破壊をまたも繰りかえそうとしている。

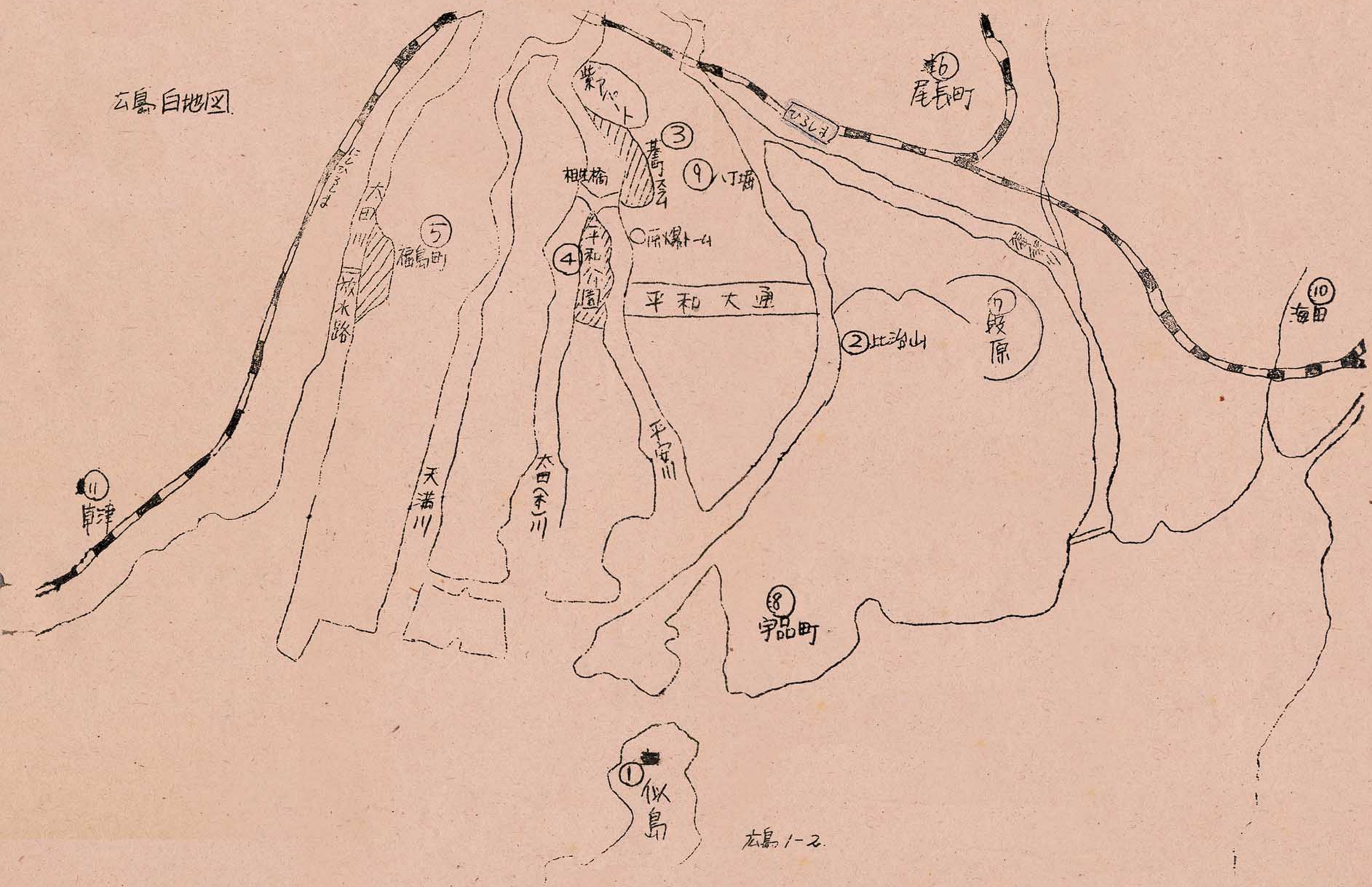
その裏で、今だに何ら解決されないまま、放置されている福島町、尾長町部落、似島学園、そして朝鮮人はさらに屈折を続けるこの虚飾と繁栄をほしいままにする権力によって大衆によって風化された被爆体験の中で被爆者の内にあるものとは、二世にもたされていることとは……

彼らは、そして我々は今年もまた国家的儀式8.6を迎えるのである。

'68年以来撮り続けてきた広島は、'71川藤のシージャックに対する銃殺という権力の横暴さを露呈と、その時の"闇の声"という大衆意識の変貌と'70代の実相を見せつけられることによって、混濁とした時代状況の中、執拗に"生"の根源を問い続けた、ヒロシマ広島 hirousima は完結した。

'74夏 我々は被爆原点ヒロシマを貫通することから、戦後30年の下界が国家が人間に何をなしえたかを問い続けたから今なを厳然としてある「広島」の巨大な岩壁を突き破るべく 広島撮影行動を ~~提定~~ 設定する

広島白地図


紫アパート
③
基町
⑨八丁堀
相生橋
原爆ドーム
④平和小学校
平和大通
⑤福島町
大田
放水路
にしきばし
②比治山
⑦段原
⑥尾長町
ひろしま
⑩海田
⑪草津
天満川
太田(本)川
平安川
⑧宇品町
①似島

広島1-2

広島　注1　太田洋子

（草饐より）高校時代の友人M子は原爆症を悲観して、12日、自殺を謀った。M子は1人だけではなかった。私の知らないM子が広島には数え切れない程いた。運命の日から十数年もたった当時も、もちろん現在でもあの日の記憶を肉体と精神に刻み入れた人が、広島には何万人もいるのだ。その暗い呻きを肌に感じたとき、広島の街は明るすぎるほどの太陽に恵まれている温暖な土地とは思えなくなり、8月6日の荒廃をそのままにひきずって汚臭に満ちた街にみえてきた。

○錯綜する人間関係のあやを描きながら愛と人倫の行方を探索するのがそれまでの洋子の文学の課題だった。だからもし洋子が原爆を体験していなければ原爆を書くこともなくこういった傾向の作品を書き続けて、むしろ作家としては俗な意味でだが名を成していたかも知れない。（中略）原爆を書くことは同時にあの日の惨状を繰り返し、眼の前によびおこすことになり、それがあまりにも残虐な地獄絵図であっただけに吐気を催させ、めまいを感じなければならなかった。洋子の言を借りれば「血へどを吐く思い」で、あの日の記憶を反すうしながら書き、不安神経症までなってそれでも書かねばならないと思って書けば今度は原爆作家とレッテルをはられ原爆以外のことでは何も書いてはいけないように評される。

一方郷里の人達は原爆を利用したとして非難する。そういったあれやこれやが洋子を悩ませて晩年の放浪に追いやった。

――書くためには思いおこさなくてはならず それを凝視していると、私は気分がわるくなり、吐気を催し、神経的に腹部がどくどくした――

それで書いた。作家である以上、書かなければならないと悲壮に思いきめて書いた。

夕凪の街はいとなどもなく海辺に特有の凪地帯にある広島市のことであり、全市の崩壊から徐々に動きを恢復しはじめている広島市の探訪記がこの作品なのである。1953年の広島に渦巻く怒りと悲しみとあきらめとささやかな希望を通じて洋子の政治への疑問が語られる。原爆で廃墟と化した広島の街の復興はまず都市計画から着手された。それらの建設に巨大な市費が費やされる。一方肝心の被爆者や引揚者の住む住宅の方が放棄された。その市政の歪みが、基町住宅やお生スラムをうんだ。広島市の

復興の力ゲに置き忘れられたかっこうとなった この人々に対し、洋子は注目したのである。当時原爆被害の大きさや白血病のことはかなり広く知られていたが、置き去りにされようとしている人々のことはほとんど知られていなかった。（その中で主人公はできるだけ原爆のことにふれまいとするが、とにかく戦争せにゃならん、原爆で身内のものを7人も失う目にあったわしゃくしゃしてどこでもええひとつ戦争せにゃあならん」とわめいているのを間のあたりに見る。）日本のジャーナリズムに洋子はいじめられた。石もて追われるような追われ方をした。追われた洋子の辿った道は自ギャクと自ギャクを慰める放浪の旅だった。

——水爆実験があって東京に死の灰といわれるものが降ってきた。「ざまを見ろ」と私は思った。死の灰にまみれて、そくそくと死んでゆくとよい。（中略。）そうすれば、人間の魂が現代の不安に対しどうあらねばならぬか、いくらか納得でき、心はやすぶられるかも知れぬ。私はそう思っていて旅に出ることを考えた。——

（屍の町より）

私達は電車の通りから右へまがった。するとそこには右にも方にも、道のまんなかにも死体がころがっていた。死体はみんな病院の方へ頭を向け、仰向いたり、うつ伏せたりしていた。眼も口もはれつぶれ、四肢もむくむだけむくんで醜い大きなゴム人形のようであった。私は涙をふりおとしながら、その人々の形を心に書きとめた。

「お姉さんはよくごらんになれるわね。私は立ちどまって死骸を見たりはできませんわ。」妹は私をとがめる様子であった。私は答えた。「人間の眼と作家の眼とふたつの眼でみているの。」「慣りますか、こんなこと」「いつかはかかなくてはならないね。これを見た作家の責任だもの。」

（注）2

72年から大学病院で産婦人科の医者をしているけれど、そこに来る被爆者や被爆二世の人がみな、子供を生むことに悩んでいる。自分自身も被爆二世であるし原爆ということから眼をそらすことはできない。被爆者や二世に子供ができると、それは普通の人と違う、被爆者にしかわからない心配をする。子供が異常だとわかった先はどうしたらいいのか……。積極的に殺していいのかね…。どうしたらいいの。と苦しげに語る。百年たっても消えないという染色体異常。ABCCは染色体異常と原爆は関係ないとうそぶいている。すごく腹がたつ。医者になる前、私は被爆二世の女性はどんなうそでもどんどん生むべきだ、そして子供と共に歩むべきだと教育同の全国大会で発言した。でも現実的に自分の眼の前にあらわれたとき、異常な子でしょうけど生むべきだ。生んでそして子供と共に歩むべきだ、必死に生きていくべきだ、なんてとても私にはいえない。二世の人が子供を生んだ。すごく苦しんで生まれたのが奇形児だった。やはりその女性と原爆とは切っても切れない、まるで原爆のとき、なんだか母が、自分の子供に生まれかわったようだ……。と。

長谷川美代子 ノートより

（注）2は、右ページに続く。そちらをインデックスでよむこと。

広島

① 似島

宇品から15分で似島につく。家がかわいたかんじで密集している。山火事の後の斜面が赤くただれている。窪地に猫のひたい程の畑がある。畑にはスイカとナスがある。山を越えていくと入江と家並が見える。うすく白っぽい感じ、土は光をはねかえすごとく、干ぼしになって乾ききっている。ブリーがはいる港の裏手にある山をひとつ越えた港には、カキ養殖に使う貝が白くカサーとした感じで積み上げてあった。しかし湾のずっと見えない少しひっこんだところでは養豚の汚水、カキ養殖のためのニオイが鼻をつく様で、白い貝のかんじとは全然異っていて、裏手では何かが動めいている様な気がした。広島市内から何かはき捨てられる様にすみ捨て場として似島がある感じ。

似島では漁業で生計をたてている人間はほとんどなく、たいていの人は広島の会社に毎日かよっている。陸軍の~~在島~~馬匹検疫所だったところは現在似島中学校になっていて、その校庭の隅の空地に小屋を建てる工事の時掘りあてた白骨がきっかけになって次々と617体もの原爆遺骨が発掘された。昭和46年10月の事である。

"あの時は全くそんなふうだったのだ。遺体をいちいち確認して火葬ゼっ様な状態ではなかった。ただもう一面の焼野原に火炙れの女をはかれた生焼けの魚といった人間が動めき、息をひきとりそして土を掘って葬るだけがせいいっぱいだったのだ。被爆者が似島に運ばれあるいはその者に死体となって流れつき大きな穴を掘ってやたらに放りこまれたという感じに5,60体づつ折り重なる様に埋められた。

<よろづやの城下ばあさん>

当時市内から運ばれて来た人を世話した。その時運れて来られた人間が一万人、今掘り出した骨700。検疫所及び兵館に人がいっぱいころがす様につめこまれた。水をくれといって足にしがみついて家に帰って顔を洗って生ぐさい臭いがしがみついて離とれなかった。夜うなされた。似島中学校からいくらも離れていない窪地には千人塚がある。(原爆後10年余り、数千の遺骨を集めてあった場所)

<似島学園>

戦災浮浪児のためにつくられた。食べ物もろくにもらえない状態で人員以上の申請をしていた事が発覚してしまい「子供を食いものにする」とマスコミにたたかれ、初代学園長は自殺してしまった。現在は虚弱児・孤児等を入園保護している。

生徒はまったくここから出ることを知らない。唯一、年に一度誕生日に市内へ出かけ、食事をしゲームセンターで遊ぶ。その

他は招待されないかぎり出る事はない。しかも外出の時は金銭は持たせてもらえず、皆それにかかわる券になる。新聞もよませなかった。外界との接触を持たない生活の中にある。<15才の少年－彼は被爆二世なのだが、身体の具合が悪いとして精密検査を受けたいと思っても低賃金保健の手続きもとられていない状態だった。>

② 比治山

太田洋子や原爆体験記等にたびたび登場する山。火傷を負い、肉親を求めて広島中から人々が逃げ集まってきた山。その山の陰になって段原は原爆の大きな被害はうけなかった。今山頂にはNHKの鉄塔がそびえ、そのすぐ下にABCCのある屋根の建て物がマッチ箱のようにならんでいる。へいに囲まれた建物の壁にはしみがしみ込み、くすんだようにならんでいる。研究所というよりもむしろ兵舎をおもわせる。敷地内のアスファルトや屋根・壁に夏の太陽がはげしく反射する。人の気配は感じさせない。展望台から市街地が小さく観ることる。

注3 ABCC

ABCCとは被爆状況というより破壊力の調査と進駐軍が安全に進駐できるかを調べることにあり、米厚生力委員会と米国学士院との間に結ばれたABCCの運営や財政に関する書簡に「ABCCの被爆調査はアメリカの防衛と安全の見地からなされる」と書かれている。又、米厚生力委が「ABCCの調査は米国の軍部・民間の防衛計画にとっても重要なものだ」と成果を誇っている。そのころKさんという被爆した娘さんが"ABCCの診察を断わると軍法会議にかける"と脅迫されたりした。そしてなによりも、ABCCの本質を占領軍の軍事目的の一環としてのEP政策を深めたのは、ABCCに関し公安を害する記事、占領軍破壊や不信を招く記事はいっさい禁止になるという報道管制であった。又、ABCC労働者も、外では被害者の死体をあさる"ハゲタカ"と指弾され、内部ではアメリカの労務管理支配のもとで問答無用式にクビを切られ、初任給において、日本人と二世とは五倍の格差がある。このようにABCCの現状においていまだ占領行政が継続している。

「被爆者はモルモットか!?」 温品康子（主婦68才）

亡くなった主人（道養氏）以下、一家四人が広島で被爆しました。私達の両親は広島被爆後、まず父が3日後に訪ねてきて原爆症になり、母は昭和23年に焼け野原を歩いて、原爆症となって、どちらも間もなく亡くなりました。

被爆のとき主人は腸がブラさがったんです。人が何かブラ

さがっていますよ」といったのでムリヤリ自分でからだにおさめて似島の研究所に連れていかれた。その時私は二女と[illegible]に土の中に埋まっていたんです。二人とも仮死状態でした。主人は治療しようにも援護法もなく家も焼かれ、親戚、兄弟をたよりながら九大、阪大など転々としました。「苦しい、注射してくれ」といいますと、病院は「ヤミの薬ですよ。高級品ですがいいですか」薬もヤミなら栄養物買うのもヤミ。すがる思いで注射してもらう。お金もなくなる。辛い思いをしました。一寸先は闇、もうどうでもええわ というところ、ABCCの方から「あなたがたのためにこうして研究しているのだからぜひ来て下さい。お迎えに上がります」そのことばによって溺れるものはワラをもつかむ。「行ったらこの苦しみはなくなるのだろうか」と喜びが胸にたっていきました。だけど行っても、いろいろ検査され話をきかれるお薬はくれない、三回いっても同じこと。迎えに来る人は泣きつくようにして頭を下げムリヤリ検査につれて行き血は採る、レントゲン照射を全身にする。そして結果は3回とも「異常ありません」といわれお薬もくれません。ABCCはあれだけの経費をかけ20年も経ったいま、少しは私たちの治療に役立つおなことしよるんかしら……。

主人が原爆病院で亡くなったとき、いきなり腕章をつけた男が来て「遺体を解剖させて下さい」というんです。お断りして家に主人の遺体を引きとったら、まだ葬式もおまないうちにまた来て「解剖させて下さい」と花輪を持ってくるんです。主人は生前ABCCが墓地の墓石を建物の土台石にしている写真をとっていました。原爆症で片肺を切断されながら自転車で被爆者のために走りまわっていた主人は二回目、以後ABCCの検査を拒みつづけてきました。それはABCCが被爆者をモルモットにしてきたからです。主人の意志がそうですから、私は3回目来た解剖のすすめをお断りしました。ある方は焼き場まで来て「30分でいいから遺体をかしてくれ」といわれたそうです。ほんとうに被爆者のためならみんな喜んで応じます。ほんとうに誰のために研究するんじゃろうか。

アメリカのために研究する人じゃったら即刻立ちのいてもらいたいですヨ。私たち被爆者の医療をやってくれるというのならほんとうに協力をしたのに……。

③ 基町スラム

広島の中心八丁堀の繁華街はオフィス街、平和公園……それらの真中に被爆直後のままにバラックが続く。入りくんだ道と汚物の臭い。6帖一間に30Wの裸電球で一家6人がくらす。子供はおもてで泥面にすねりこんではしゃぐ。オヤジはホルモン屋でよその親父とヒヤ酒をひっかたぐちをこぼす。目が見えないから働けない

という。日本名と韓国名をもつ親父さんは大阪の自分の子供の自慢話しかしない「食べろ！」とカアちゃんがどなりこんできて、おっちゃんをつれていく。南無妙法蓮華経の読経があたりにえんえんとひびく。突然親父がガキをひきづりまわす。

八丁堀の天満屋のガラス張りのエレベーターや立ち並ぶビル。戦後のすさまじい繁栄のなかですべてのものを虚飾におおいつくそうとする中枢都市広島。繁華街のいらだつしかないところからいったん基町に足を踏み入れるとやっとほっとできるような人間の体温を感じるのである。今ごは広島美化運動の名かもとにスラムのほとんどが打ちこわされ歯の抜けたような廃墟に風が吹きぬけている。今スラムの人間は全部紫アパートに押しこめられる。

紫アパート……鉄筋コンクリート造りで中はうす暗く湿っぽい。建物は8～10階建てで迷路のような廊下がある。コンクリートの土で固めていたガキにカメラを向けるとザラザラの壁にぴったり身体をつけて妙に緊張した顔でこっちを見る。ケロイドのあるオバちゃんがエレベーターの中で、ばっこのほうでじっとしている。今までバタ屋をしていたオッちゃんが自転車をエレベーターに入れてズッと厚い壁のむこうにきえていく。生身の被爆体験や今までの生活をいっさい変えられて、すべて無機質な中にぬりこめられる。

MEMO

④ 平和公園

市の中心にある平和公園は「平和都市」広島の象徴として東大助教授丹下建三の設計のもとに建ち並ぶバラックをたちのかせてつくられた。太田川の分流、本川、元安の両川にはさまれた三角州の土に広がり、平和記念館、原爆資料館、市内公会堂、原爆ドーム、原爆慰霊碑、原爆供養塔がある。ドームは舟とともにしらっちゃけうすっぺらくなってしまった。公園の中は観光客がやさかい慰霊碑の前で写真を撮り休日になるとアベック、若者が大勢あってもなくがーっとした感じで、ベンチ、芝生があちこちに腰をかけている。

8.6が近づくと赤ぽいゴム人達がしだいに集まってくる。ドームの前に腰をおろし、何時間でもいつづける。

資料館ではスポーツ 産業 経済 etc 被爆当時から数枚ずつの写真が変にまとまりかえった感じの「会」の写真に吸収されるように配列されており「復興」というテーマで統一されている。

被爆者のおばあさん。

「あなたは広島のいろいろな所へ行ったでしょうが。私は平和公園では一度も足を踏み入れたことはないし、今後も絶対行くことはないでしょう。」

市の救済事業なのか8.6の前には60～80位の墓所あたりの被爆者が清掃にかりだされる「8.6にはT.V.も見ない」と吐きすてるようにいう。しかし家にいても8時15分が近づくにつれしだいに緊張していく。

⑤ 福島町

福島町は歴史的に見ても原爆とは関係なく、未開放部落であった。現在の町の感じは大きく高い建て物が目立ち、肉の処理場とか屠殺場、修理工場、黒々とした壁の市営アパートがありそれに関係する生肉加工 etc の商人、職人が住んでいる。

そこに住む人がある時、飛行機で広島へ帰った時他の町と区別する為に作られた1.5m幅の用水路をへだて「我々の福島町だけが思い工だった」という話がある。そこにはつもりつもった様々な思いと人と人との間から生じた非合理があった。被爆後、焼け野原となり、広島の地の上に差別地帯をなくそうとしたわずかな動きもなく、なしくずしにその地を離れたく願った人々もまた、その地、

福島町にもどったし、他の人にも又同じように差別[redacted]した。そして被爆後の都市計画の中で平和観光都市の名に恥じないように先ず目をつけられたのが福島町である。今でも8.9階建てのアパートが建っているが夕刻アパートの角に立ち止まっていると買いものに出かけるおばさん達の姿は住宅計画とやらの姿ではなく何も解決などできやしないことをはらんで外面のことのみ計画の中で人の心はますますとざされ一人一人の中にこもっていっている。

⑥尾長町

○真新しい新興住宅地の中に黒く落ち込んだように見える。屋根は古く壁はうすよごれ この路地には人気がない。ここは直接的には原爆の被害はうけていない。この少し奥の山腹にバラック作りの小さな小屋が一角をしめている。ここは未開放部落である。

○ある小学生が学校の弁論大会で自分のこと、本当のこと(「天皇陛下と部落」)をしゃべろうとした時、先生にもみ消されていったり職といっても日雇いしかない。

○「部落民と呼ばれながら私達は自分の子供を立派に育てることで自然に解放されると思います。」

広島 第17 18

○夏の夕方 この町の路地にも人が集まり8月6日の日のことを切々と泣きながらとどめもなく話し続ける。自分の子供を被爆大学にまで入学させながら育てて来た老婆も8.6のその日……「15分たったら死んでった」と今でもその息子の遺品をめくりながらほおずりするように何度も何度も見る。

⑦段原

○比治山のすそかげに細長く続くこの一帯は原爆の直撃からのがれ古いたたずまいを残している。この古さは広島の新しさに比べて人々の生活の中のりずしを感じさせる。しかしこの町に道路が貫通させられることにより、人々は手づくりの人間の地を軸にしてうばわれる。6月以[redacted]来「わしはやっと死に場所をみつけた」とかん強に拒みつづけている老人がいる!!

○くずれた古い壁 すすけた格子のある家々に表札と並び、黒い金属板に金文字の「原爆被爆者の家」とかかれた札を目にする。

°広島デー（女の人のアップ）
もはや全然動くことができず皆と一緒に温泉をまわることもできなくなり一日中下駄を見て寝たきりというおかあさん、写真をとらせてください。そういうと話しはいくらでもする しかし写真だけはいやだと強くいいはる。20才のとき原爆乙女としてアメリカに渡り、手術の結果手がつかえるようになった その際 東京へ寄り戦犯として獄中にいる賀屋興宣を慰問し、直筆の書をもらった。結婚をあきらめ 一時は平和運動もやったが何か利用されているだけのように感じられてやめてしまった。
今は洋裁を教えることで暮らすことができるようになった 教会へも通っている。
壁に「平和、賀屋興宣」というガクがかかっている。私の一番好きな言葉です。

⑧宇品港
市電の終点と港の間に何もなく場末の感じ
港には小さなターミナルビルと少し大きなモータープールがある。フェリーがひんぱんに発着するが人はポツリ、ポツリと出て来て、バスや電車でまそへ散っていく。ターミナルも静かで人気もあまりない。

⑨八丁堀
広島唯一の繁華街。市電やバスはここで大部分の人間を吐き出し 再び多くの人間を押し込める。三越、天満屋、福屋がその売り上げを競い それに今度 そごうも加わろうとしている。
その間のアーケード街にも人があふれ ここに来れば 何かがあるみたいな感じで、流行に身をつつんだ男女や学校帰りの女子校生の群が集まってくるが 街はキラキラしているが薄い感じだったり、商店も硬くキラキラしていて落ちつけず 決して それらの人々の期待にそえるはずもなく、人々はいらついた顔で流れる様に歩きまわっている。 そして何かデパートの催し物などあると押しよせていく。（天満屋の「世界のヘビ展」） デパートの上のゲームセンターには、人はごちゃごちゃ、家族連れ

などが もくもくと遊んでいて、活気とか、はれやかな感じは全くせず、機械のウィーン、ガチャガチャという音ばかりがうるさく響いている。
風呂の薄っぺらなきらびやかさの中を、黒ずみ焼け焦げた感じの市内電車が重く地を這う様に走っている。
天満屋の屋上のプールでは薄くはられた水の中を平べったい感じで泳ぎ その周りで人々はおもしろくもなさそうにボーッと眺めている。
三越、天満屋には、ガラス張りのエレベーターができ人々を飲み込んでは上へ下へ運びまるのが外からでも見える表に面した付近は ただただ小さゆいなビルや店が並ぶが アーケードの奥、裏通りの方には飲み屋街もあり、夜になると ヤーエンがうろつく。アーケード街も道巾は広く 両側には 大きなガラス張りのショーウィンドウ等が並ぶ。
電車通りの道は巾広く 強い日射しに白々としたビルをかもしだし その中を信号の変わる度に大勢の人が 横断歩道を移動するが無気力に無気力を扱かれた様に 渡ることと以外に意識が無い感じで移動する。

⑩海田

ギラギラと太陽が照りつけ、海では養殖のカキの腐った臭いが鼻をつくあけっ放しの[redacted]ほったて小屋から お昼のテレビ・ショーの音ががなりたて小屋の主は海で腰まで海につかって養殖のたいくいを立て直す。まわりには製鋼所の音と車の音しかない。あまりにも殺ばつとした風景の中に人影はほとんど動きもしない。
町には二階建ての家がつまり 人気のない商店街が続く 古い家や白壁の土蔵が残り、人は一様のソツのない対応を示す暗いどんより重くのつまった町の中を 時間がただ何もなく過ぎていく。どんよりと動かない水をたたえている水たまりの様にない。

⑪草津

S47年9月から広島市の流通センターの基本線が決定され、埋め立て造成工事が始まる。漁民は200万円などの補償金をもらい、ひるまから酒を飲んだくれている。人が荒れているという感じではなく、気力がない。被爆者が多いらしい。午後になると家の前で何をすることもなくただ水遊びをする親子がいる。

昼間から25〜26才の男が子供みたいにはしゃいでいる。

<広島市の流通センター基本論>

/ 長ながみられたような長い時間をかけて自然発生的にのびてきた街とは違い、大規模にワンセットで計画され、あらかじめ想定されて作られた環境と短時間に人間が適応していくという。人工的都市実験的都市への試みといった側面を強く持っている。

MEMO

(広島P6よりつづく)注2.

生ぐさい 血の臭い, 死臭, 汗くさい人いきれ, うめき声
その中から不思議な声がきこえて来た
「赤ん坊が生まれる」というのだ
この地獄のような地下室で今, 若い女が産気づいているのだ
マッチ1本ないくらがりで どうしたらいいのだろう
人々は自分の痛みを忘れて気ずかった
と「私は産婆です。私が生ませませう」と云ったのは
さっきまでうめいていた重傷者だ
かくて くらがりの地獄の底で新しい生命は生まれた
かくて あかつきを待たず産婆は血まみれのまま死んだ
生ましめん哉
生ましめん哉
己が命捨つとも

(「生ましめん哉」 栗原貞子)

㊀4

父の遺体を焼いた小学生の私

文洪蓮（主婦・40才 当時江波山6年
1.3km地点で被爆）

手なし人どこが目で耳だかわからない人「アイゴー アイゴー」と朝鮮語で叫ぶ人をよそに、私（当時13才）は何がなんだかわからないまま 学校で先生からもらったお握りを握りしめて泣きながら父のいるうちへ急ぎました。グシャと何かを踏み見ると死体のおなかに足がのめり込んでいた…。そんな恐ろしいめにあいながら必死に走りました。製材所をやっている家にやっとたどりつき父の姿を見て私は思わず「父ちゃん」ととびついていきました。その顔面はヤケドに王のごとくふくれ上がりほとんどはだかのようなかっこうになっていました。「ケケ子（私の日本名）水をくれや」「ケケ子胸をさすってくれや…」私は炎の中で急に苦しみだした父の介抱をしました。何度も、暗くて死体のゴロゴロしている河原に行って手ぬぐいに水をひたした顔にかぶせてあげました。またシャツのあいだからだらりとただれてさがった皮ふに血マーキロをたらすと父は「ワァー」と大声をあげるのです。

十月十一日父は息をひきとったのです 泣きながら私は校庭のすみに行き桧木や柱の燃えたぶりなどで父の死体を焼いたのです。頭と足は早く焼けましたが腹や胸はなかなか焼けません。「早くマキをくべろ」と係り官の人にいわれ、私はイヤイヤながらマキをくべたのでした。空カンに入れた骨を胸に抱いて私は途方にくれておりました。でもさいわいなことに親切な方に、1ケ月150円で子守りに雇ってもらい、なんとか生きていけるようになりました。そのころから、私は頭の毛が抜け始めたので三角ズキンをかぶってかくしておりました。 何年かかたち特別被爆者健康手帳がもらえるというので申請しました。ところが原爆にあったという証明書もなければ保証人もないという理由で断わられたのです。二度、三度と、どんなに詳しく説明しても、もらえません。日本人ならすぐもらえたはずです。私は自分が朝鮮人だからと思い、一度は断念しました。

ところが、江波本町の米の配給所に、私たち家族の名簿があることがわかり、やっとこさし四月、五度目の申請で手帳が交付されたのです。

『20年間 放りっぱなしにされてきた』

「[illegible]への[illegible]」・丸茂つる

昭和19年私はたの[illegible]である広島に疎開した。夫に死なれ二人の子供をかかえた私は仕事で郵便局へ急ぐ途中

長い板の橋だった。橋の深川地より1キロのにさしかかったとき、B29の爆音を耳にし、オヤッと思いながらも二・三歩進んだでしょうか ガラガラというものすごい音を聞きながら、私はブッ倒れてしまいました。~~ごう音を聞きながら私は~~ 気がついて起き上がると右手にボロボロにちぎれている文書の袋のはしだけをしっかりと握って左胸は青い火が皮膚をなめていて、あわてて消したら皮がズルッとむけてしまいました。昭和35年「戦争の犠牲者なんだから国が責任をもって訴てほしい」と政府に訴え出たにもかかわらず政府は沖縄の現在の立ち場としてはアメリカとの関係があるからおもてざたにできない」となっかむりを決め込むばかり。

在韓朝鮮人被爆者の証言

「日本が憎い」

いつもとかわりない朝を迎えました。

子供はいつものように学校へ出かけすれ違いに夫が帰ってきました。しばらくしてピカーッ!! あとは何もわかりません。

全身がひどくやけただれ、くずれた肉の下敷きになり右腕を切断されておりました……。やっと身動きできるようになって故郷の韓国慶尚南道の晋州へ帰りました。韓国へ帰ってからの生活は最低の生活です。私が四年近くも患っていたし、子供は頭がボーッとしてる~~ます~~し、一家はメチャクチャ。どうにも生活ができなくなり、私たちは釜山に出、夫が煙炭かくりの日雇い人夫として何とか生活してきましたが、その夫も原因不明の病気で七年前にとつぜん死にました。

こんな私たち韓国原爆者の窮状を一言でも日本側に訴えようと思い昨年の七月朴大統領の就任式に日本からこられる佐藤首に訴えようと日本大使館へ行きました。

そこは私たちを一歩も中へ入れてくれません。そこでムリに中へ入ろうとすると近づいてきた警察官が「クルマに乗れば佐藤首相に会わせてやる」というのです。ところが私たちが連れて行かれたところは鐘路警察署でした。そのときのくやしさ。釈放されたときにはもうとっくに佐藤首相は帰ったあと。

その間何もわからないまま警察に半日以上も監禁されていたのです。

私たちがこんな目にあわされなければならないようなわるいことをしたのですか？ 誰のために、何のために、原爆をうけ、韓国でこれほどまでに苦しまなくてはならないのですか。

原爆の責任は日本にあります。その日本のいちばんエライ人が私たちのささやかな訴えをひとことも聞こうとせず帰ってしまったのです。

日本の責任ある文化、補償を要求します。

この20年間に外観的に日本が一変してしまったことは内外の識者がひとしく認める所である。国土の外観ばかりではなく社会の基部も底なだれのように崩れた。それは明治100年の変化を10年に圧縮したような激しさであった。

確かにこの十数年の間に数百年の歴史をもつ村のほとんどが死に常民が死に古い共同体が死んだからである。敗戦後、30年前、解体した天皇の軍隊から故郷にもどって来た人々はつくづくとあたりを眺め回し「国敗れても なお山河あり」とつぶやいた。それが今日では、

―国は栄ゆれど山河も村も破れ無し―

その為かここ数年来柳田国男ブームがつづき民衆史、民衆思想史のブームが起こっている。柳田学の主役は「常民」常民とは、山人とは違って里人であり、農耕や漁労に従事し、里に定住して標白などはしないもの、祖先から子孫にいたる「家」の永続を願いその生命の連鎖と愛慕の交換とを喜びとして生きてきた。その常民が死に絶えつつある。

日本がコンクリートとガラスとプラスチックの合成物に変貌してよいと認めたのに今さら柳田の描いた人情風俗を探し求めるとは何たる矛盾！

本当に亡びゆくものに代る新しい共同体や現代の常民がどのように創られつつあるのか――。この方に我々は関心をむけるべきではないか。（中央公論8月号 色川大吉）

―74年長崎アピール―

キリスト教伝来以来四百年の歴史を持ち来た街長崎。なシ利代る。の更おぐよ位
その門アを常に海外へと向けて来常に鮮明に質り強時あと
それは、日本の権力者にとって故朝鮮人すでは、なえのに流
体質と文明・鎖国・恐怖政行と称する地うこと今あそ底に置かれ
タン弾圧・蔑視・搾取・原爆と続け抵抗ことは、そ
連行・先端・三・エ場・ぶ"受難"と込む長崎をし、の
最思な金・みを・搭乗を伸ばし、伸ばし、
不中に絶対的な国家・さ拷問・包収と融合を
絶多なる一個の精神に
う置統け長。

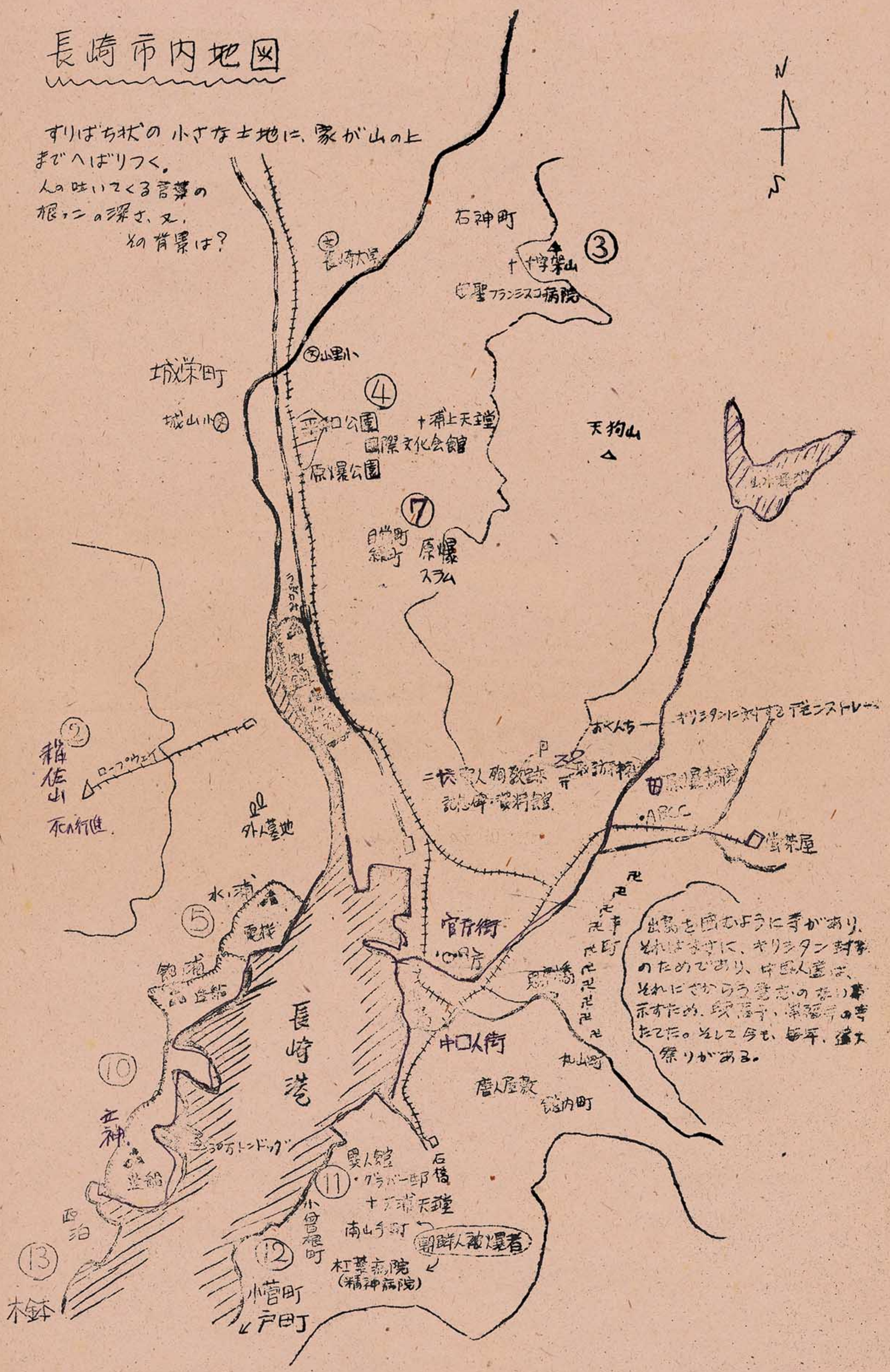
一斉に刻みこまれている農民。
つき隠れキリシタンが迫害のあげくたどりつ
き、被爆者が流れ着いた島。
東に、ライ病症による黒い子供が生ま
れ苦渋の五島列島。
中の数知れぬ唐行を送り出し、今なお
せ舞台の行ってほとんどが大阪・京神戸へと出か
近代国家の底辺で支え、エネルギー革命
と共に追われ、ぼろくずのように棄てられ
た炭坑の島々。

絶対的な貧困と、日本的な支配体制
の中で、このギリギリの生きること三
食つぐことを持とうとした人間のこの情
熱を起こさねばならないのか。これら
の具体をどう受けて長崎へと到るか!
一個の人間の生き様に刻みこまれた生
の痛みに我々自身がどこ迄、付き合い
きれ、どう抜けるか。

―長崎第四次撮影を提起する―

長崎市内地図

すりばち状の小さな土地に、家が山の上までへばりつく。
人の吐いてくる言葉の根っこの深さ、又、その背景は？



長崎

ああた、ほんとに人間は死んで行く先が無か死にようしまう時にはこうして両手ば前に垂れ下げて息の切るる前からゆっくりほんまこつ幽霊の手つきになって歩いてゆきますとばい。冗談そら事ではありませんとあの手つきは、ひとつ所に寄り合うて死んだ人間も一人で道に倒れて死んだ者も、ひよろひょろり両手ば前に垂れて死なん前からゆう先無うなって――。ピカの時は、すぐ死にましたからなあ、うちの嬢は」

（流れの都より）

2. 稲佐山

街のフカン

ここから街全体が見わたせる 市街地から山が三方にせり出してすり鉢状の地形の中に家が山の中腹あたりにまで、びっちりへばりついている。

小さな家が重なりあってひしめいていたり小高い所には天皇が泊まったという天太郎や海星高校のきれいな校舎が見える。すりバチの中腹はいくつもの寺がギッシリと並び街を見おろしている。

③〈十字架山、キリシタン墓地〉

山の頂上に十字架が一基建てられていて春と秋にカソリックのミサが行なわれる。その途中の山道には13基の十字架がキリストの受難を示すことばが記されている。この山道の途中に小さな畑があり、そこでカソリックの老夫婦が働いていたりする。

④長崎市内

平和公園、マイフクリーム売りの婆さん

「原爆で子供を失い夫も戦死して食うものも食わずイモを粉にしてそれをこしたカスを食べて生活もしてきた。私がこんなみじめな事にであったことも私の運命です 私は今までまじめに働いて来た 本当は日本中のみんなが原爆で死んだらいい 損をするのはいつもまじめに生きた人間だ。

最近の観光客は自家用車を持ちきれいな服

を着て平和公園に来る
いやな感がする写真を撮ることを外国人だったら許してやるが日本人には絶対許さない」そう言ったあと商売人の見せるあの営業用の笑いにもどり「アイスクリームいかがですか」と呼びかけた

被爆再婚同士の若夫婦
被爆当時のことを話した後、こっちが太田洋子の「一一もう一度原爆に会うがいい」という事をきり出すと妻の眼がキッと怖くなり「そんな事？そんな事になったら私は死にます　あの当事のことを思うと今はどんな苦労をしても生きていける」と言いきった
又自分の息子が被爆の為、結婚が遅れている事をすごく気にしていて帰る間際、「どうかこのことは絶対他人には言わないでくれ」とたのみこむ様な感じだった

⑤ 古びた小さな街工場（化工場）が続く
五十～65ぐらいの男女が黙って働く
「こんなひどい仕事、若い奴3日と続いたことはない。」
「冷凍型を運ぶと手に火が燃えついて大やけどをして病院に入院した」とたんたんと語る
このたんたんと言う男も腕や脚にやけどのはかしあとがある

豆工場
ケロイドでひきつった顔を少しも動かさず蟻の様に豆を運ぶ婦人
ビッコの老人（70才ぐらい）がセメントねり器のローラーにまきこまれそうになりながら歩く
もう一人の老人は背骨がマヒの体をねじまげ耐えることのない単純作業をくり返す
いつまでも続く拷問の様に生きてることが見えた　矢々耐えることがない　彼達のこうしかない生。

⑥城栄町、城山小学校

被爆の時に土台だけ残ってあい形び今は校舎が
鉄筋だがひびとか割れ目、くちた感じが残る
原爆で死んだ娘のことが忘れられなくて娘の頭の良か
ったこと時を話す 墓が近くにあって自分が死ぬまではこ
ここにいたい 三菱につとめていて死んだ人はいい
会社から見舞金や種々のほどこしがあれる
娘には何もされない

⑦〈緑川町 目覚町〉

原爆で焼け残った木をつぎたした様に建てられた一角
割の家がみに寄り合う様にして立ち並ぶ

⑧朝鮮人被爆者

昭和16年頃から激しくなった徴用にひっかかったの
じゃ。8月9日被爆した人じゃ
ワシは長崎の三菱造船で仕事をしとって昼で飯を
食べに行こうとした時空しゅう警報が鳴ったので
近くの防空壕へ入ったんじゃ そこで被爆した
ワシは、もう結婚しとった 2人の子供が居た
その年の11月4人連れて馬山へ帰って来た人じゃ
ワシは体に見苦巻き松葉杖でびっこひきひきの帰
りじゃった 翌年子供2人が原因不明の病気で
続けて死に 家内もそのショックでおかしくな
ったのか精神錯乱を起こし子供の後を追い死ん
で行きよった

⑨丸山

花月 一300年の歴史を誇る遊郭(花月)回りには
黒い三菱の重役等が高級車で花月に来る
売春婦がどす黒く重く立っている
どの窓にも狭い格子やすだれがかかっている
2、3階建ての古い木造の家が狭い路地の
両側からかぶさる様に立っている
一目で裏では売春宿だと解る感じである

⑩ 寺町

出島を囲む様にふの小高い所に寺がびっしりと並んでいる　寺から町が見渡せる
寺町の下に細い道に沿って仏具などの古い小さな店が並ぶ商店街が続く
しかり作りの橋がいくつも続く　夕方になると夕涼みに子供達が出てくる
カラーテレビやクーラーが全然目立たない様にあっている　何かを吸い込んでゆく感じ

―中国人の菓子屋の婆さん―

原爆で死んだ娘のことが忘れられなくて娘の頭の良かったことなどをずっーと話す　墓が近くになって死ぬまでここに居たいと言う　話す時じっと隙を見て話す　着がえをして来て正座して線に座る

⑪ 三菱造船所工場（30万トンドック）

周囲から隔離し、中をおおい隠す様にしかべいが工場の回りにえんえんと張りめぐらされている
夕方引け時工場から吐き出される工員でバス停や船着場にかけての路がみるみる埋めつくされてく
東洋一と言われる巨大なクレーンがまっ平箱の様な塊々を呑み込むようにはり出している

―飲み屋―

会社がひけると毎日同僚が集まって酒を飲む
三菱は船の造船の時　人が何人か死ぬことを予想し　その補償金を見積もりの中に入れてある

⑫ 三菱 30万トンドック

平地を全て奪われ山肌にへばりつく様に家並が立つ　ただ人が通れるだけの道幅を残しておばさんも「三菱あっての長崎ですからね　三菱で兵隊が作られますよりも下請の人間に対してはたとえ工場内で死のうとわずかな金で済まされてしまおうと仕方ないですわ」と答えてしまう
溶接工員がタンカーの鉄板にアリの様にへばりついている　焼けこげる様な暑さの中で全身真黒に日焼け　上半身はだかでそれでも耐えかねずにドライアイスを背負って作業をすることがある

⑬ 小曽根

グラバー邸に 小曽根所 池の平……国分所、小瀬と続く。対岸に30万トントックが横たわる。

煙にかすむ中に タンカー 貨物船が停泊している。

かい間 見る三菱造船 ドックからは鉄を打つ金属音が湾内を静かに響かせる。

この所一帯は 大三菱と対をなす、細々とした家内造船所が密集している。顔じゅう機械油をぬり込めたように汚れ つま先までしみ込んだ格好をした男達が体を曲げて わき目もふらず ハンマーをふるう。

通りの向うでは 山にへばりつくように 低く古く黒々と汚なくしみた家がありのように密集している。その一角にもう一段 小さくくずれた家並が処々にある。そこにかつて強制連行の朝鮮人部落があるという。油に汚れに包まれた臭いはムッと立せる。

小瀬 所は崖を切りくずした猫の額ほどの処で小型船を造っている。いまにもくずれそうな木の階段を三階ぐらい降りるとペンキが壁に散乱し2階の居間兼事務所は人気がなく暗い感じがポツーとしている ここは男も女も区別なくひたすら黙々と働くのだ。

小曽根所

↓

⑭ 浪花平所

中小造船所、スクラップ所が 対岸の三菱造船所と向き合ってずらっと建ち並ぶ。薄暗い工場の中で溶接の火花がパッパッと散りハンマーのかん高い音がひびく。

地面が機械油でどす黒くギラギラとしみつき ほこりと油で汚れたエンジンやボンコツや 鉄の残がいの中を油にまみれて 日焼けした中学生がアスファルトの熱い照り返しの中で黙々と働き回っている。

山の方は山を埋め尽くすようにでらしりと頂上までしみついた家が並び 人がやっと通れる位の石の階段が急こうばいで、それにそって水道管がおきだしのままはいとってゆく。

大鉢

戦時代

造船所で強制労働させられた朝鮮人らの収容所。廃墟の中に2階建て長屋の様な3棟2年前台風で1棟がくずれ瓦は、くずれおちペンペン草がぼそぼそはえ出している。ぼろぼろ電球がポーッと積み重なったほこりの臭いがプーンと静まりかえった暗やみの中にたちこめる。時々遠くで遊んでいるガキの叫び声や、すきま風で紙くずがカサカサところがされる音だけが響いている。

原爆のおっぱけたあと一番最後まで死骸が残ったのは朝鮮人だったとよ。日本人は沢山生き残ったが朝鮮人はちょっとしか生き残らんかったけん。とかんもこがんもできん、死体の寄っとる場所で朝鮮人はわかるとさ。生きとる時に寄せられとったけん。宿屋に入れたもこもて仕事だけ定いも立ちもきらんしこさせて。それで残った朝鮮人達の死骸の頭の目ン玉はカラスが来て食うとよ。どこどこから来たカラスじゃったろか。うんと来とった。カラスが目ン玉ば食いよる。アッアッと思って見ればお体ば動きよると思ったら目が動きよるとよ。それで日本人もたとじゃっ、良かったけん。諫早の刑務所の青部隊ば連れて来て鯨ば焼くごとして焼きにかかった。まず薪ば持って来て並べて朝鮮人ばその上にずらっと並べる。まず薪ば持って来て並べて朝鮮人ばその上にずらと並べる。その上にまた薪ば並べる。前に並べて下からガソリンば火をつける。なかなか焼けんとたいね。ゴボゴボとなって下にポテポテおちよるとよ。鯨焼きまるのようにおんなじ。

香焼島炭坑におったとですよ、夫婦とも。そしたら原爆で戦争が終わった。わしゃ いっちょも知らずにおったとですよ。あいつがヒロポンばやりよったことは、闇焼酎のなんの売りよったことはやりよるごとる思うした。わしのほうも忙しゅうて屑物ば拾いよるもんけん。二度まで知らじまった。三度目に警察から知らせて、調べにきて、びっくりして連れに行った。警察にゃおらんという水上署のうじゃろということで水上署に行った。会わせんちゃう、わしはあのうはあのうばかかえて行ったとたいね。会わせんことがあるもんか この子腹へって死んだら責任とるかとさし出した。男の子は出らんとよちゃうて泣きよるとですよ、乳のみ子でしたけん。ひとりでわれに言わんと苦労しとったとですよ、うちのあれは水上署でも困って赤んぼごと入れてあてこの中で炭おこしておしめかわかしたりそげんしてここの長崎の水上署も困って赤んぼこと入れてくれてあたの中で炭おこしておしめかわかしたりそげんしてここの長崎の水上署の留置場の中で育てきしたとあのうは。

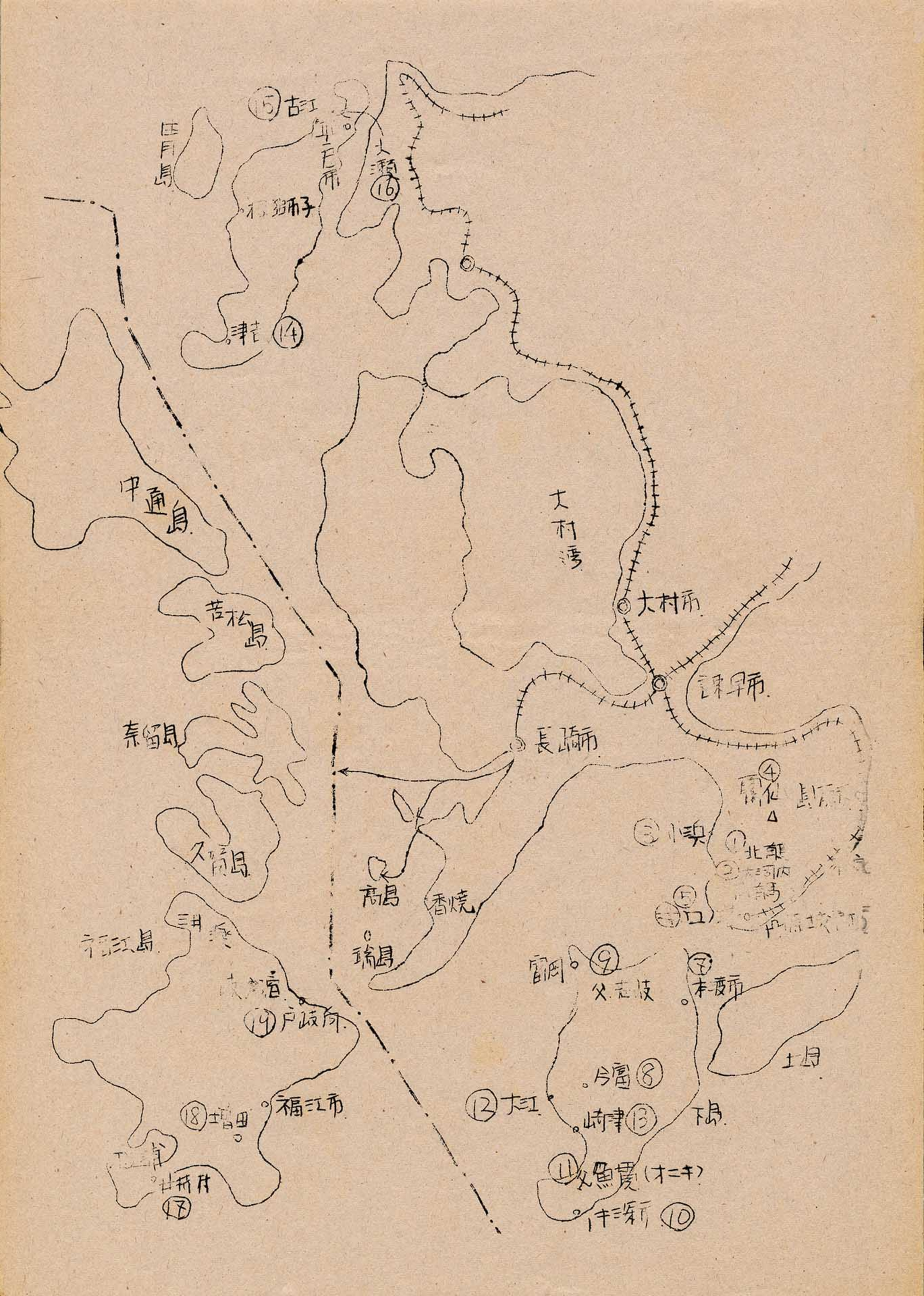
自分ひとりなして苦労することあるか わけば いえちゃうて責めました。いわんとですよ。ひとりで考えとって連れてきた晩ひと晩ねらんとです。ひとめもねずと あくる日からおかしゃうなってしもた、世の中さかさまになったとでしょ。生き残った朝鮮人 あの頃 一段と家もなか食いもんもなか 着るもんもなかとですから、わしはぼろ買い、かかは闇の焼酎買いとロポこまでするようなっとった、苦労したとですよ かかは、留置場の中で子供抱きかかえながら考えつめて頭にうちあがったじゃろ香焼島炭坑のことはしっとりますか。ひらかったとですよ。そこをあがれたと おもったら原爆でしょ。すぐ頭にうちあがってしもて自分のうたあんた誰ね ちゃうとですよ。

「鉄屑工場 何で出来とるとか、必ずかいわれたもんし こう見てはいよ、出来とるとで？ 紫色に 鏡でみるもん。原爆の病院の先生とちがうじゃろか、原爆病院に行ってみたろかと思うばってん。特別のほうの手帳持たんと、大橋のところでやられたのじゃけど生きとる証人連れてこいと言われるし」

彼は背中を曲げてシャツをめくりあげて わたしたちに見せた。大きな洋大の斑点をわたしたちは見た。

（流民の都より）

生月
平戸島
平戸
松浦
唐津
福岡
伊万里
佐世保
宇久島
小値賀島
五島列島
中通島
奈留島
久賀島
福江
福江島
崎戸
大村
有明海
大牟田
熊本
熊本
長崎
香焼島
伊王島
高島
諫早
島原
島原
雲仙岳
口津
天草
志岐
本渡
天草下島
上島
牛深
長嶋
水俣


⑮古江
月島
平戸市
大瀬
⑯
猫子
津吉
⑭
中通島
大村湾
大村市
苦松島
佐世保市
長崎市
④
小値賀
①北部
②
五島
⑤
⑥
久賀島
高島
香焼
瑞島
富岡
⑨
父志岐
⑦
本渡市
土肥
⑲戸岐市
今富
⑧
⑫大江
崎津
⑬
下島
福江市
⑱土井田
⑰
⑪
魚目
(オニキ)
⑩

島原

① [illegible]

あぜが石垣で作られている水田がゆるい段々畑式に山の方までひろがっている。浜の方は石が洗い流されて小石と土だけがむき出しになった海岸がずっと続く。屋根瓦は古くコケむしていて家を押しつぶすように重圧感がある。

南有馬では古い家は漁師の家 新しい家は年に1、2度しか帰らぬ船員の家 老人は漁師 若者は船員となる。1度船に乗れば8ヶ月や1年は帰らない。家族は神戸や横浜へ行いに行く。

この辺の農家は平均して1町歩くらいの田畑しか持っていない。忙がしい時以外は土方に出ている。

② 大河内、上海に行った老婆

こんな山奥の農家に暗い生をうめたくない憧れて上海に2度も行った。1度目は1人で看護婦をして、2度目は姉と弟の2人を連れて

佐藤たつのさん(芸行さん) …83才

13〜15才でベトナムに売られていった人で彼女の両親は別居していて父親はたいへんな酒飲みであって彼女は親をたいへん憎んでいた。S21年に強制送制送還されて着のみ着のまま40年ぶりに帰ってきた。本名では唐行ということがわかるのでおもと と名を変えて(誰でも唐行ということを知っている)ずっと1人でくらしてきた彼女は生活保護もことわりさかなを山奥まで売りに行ったり海草をとりそれを干し売ったりしているが生活費は1日150円と切詰めなものである。それは1日500円位しかならない。貧乏であっても近所づきあい親せきづきあいにはかたい。

家はトタンぶきの小さな平家で畳はすりきれてペコペコとへこんでいる。炊事場はうす暗く小さななべなどが並んでいる。へやのやは持ち帰ったらしい反のたこはトランク2個 ぼろぼろのふとん 古い鏡台と自分で造ったような粗末な仏壇などがある。顔は行商でかなり[illegible]している。左の薬指には銀の指輪が食い込んでいた。

③ 小浜

山とくっつくように道が続く。道路より低い所に家がゴチャゴチャしている。山崩れがあったらこういう家はあっという間にあとかたもなく押しくずされてしまいそうである。

④ 雲仙

昔からの高級なゴルフ場、温泉街、国立病院、島原の女が仲居、バーのホステスとして働きに来ている。

地獄でキリシタンが処刑された。

⑤ 口之津

明治・大正と天草などの石炭の積み出し港として栄えた。遠くジャワ・スマトラ方面に炭鉱船に押しこめられるようにされて唐行さんが売られていった。

⑥ 島原城跡

島原の乱の時、島原民が立てこもった砦周は現在茶が幾重にも重なり合うようなみかんの木が繁茂しむっとするような熱い空気が漂う。（注2）

天草

⑦ 本渡市内

飲み屋街のはずれにキャバレーが3軒いずれも古い映画館みたいな建物で淡い色の壁にボツボツと汚れたシミがついている。真昼間入口の戸を開け放してニイちゃんが歌いながら掃除している。中からガンガン音が流れてくる。細い横道に入ると飲み屋、ぎぼいバー、ダンス喫茶、ビリヤード等がゴチャゴチャある。外から入ってくる者が少ないのに　あっちこっち口を開けて待っているみたいに目立つ。

⑧ 今富の大西かよさん

生まれてすぐ父親に死に別れ7才の時に母が再婚し兄弟3人が残された。長男はすぐに三池炭坑に働き兄弟を養ってきた。よかさんが15才の時、兄弟を男にする為、カンダカンへ売られていった。身売金が200円、毎月200円でその内、半分を親方に預。当時今富の町で10円持っている家はなかった。食事も朝・昼・夜ばかりで夜だけが麦飯という生活であった。15才の時からサンダカンのお国さんの女郎屋で働いたがイギリスのだんながついて年期があけた。女郎屋では日本人の客はとらせなかった。イギリスのだんなが本国へ帰った時一旦日本へ（今富）帰った。指輪や衣服を船にいっぱい積み込んで帰った。

しかし村でも落ちついて居られる場所もなく近所の

人と話をすることもあまりなく、居たたまれずだんなが帰るよりも先にサンダカンに帰った。約2年程して病気のためやむなく日本へ帰ったがもはやよかさんにとって住む所はサンダカンしかなく もし病気にならなかったら帰らないつもりだったといい、しかたなく帰ってきた感じである。病気の時持ち帰った指輪や着物を姉が価値も分らず売りとばし無一文になった。病気がよくなると無一文のまま満州に行き飲み屋で働いた（10年間） そこで大西と結婚し、一見ができたが終戦で京都へ引きあげた。そこで親子3人の生活が少し続いたが夫がなくなり再び息子と2人今度に帰ってきた。（注3）

⑨ 志岐炭坑 ―茂木町・志岐

現在400人で1つの坑口で海底炭坑横穴式の炭坑。天草の人間が半分。他は北海道、筑豊、漁師…etc の炭坑から流れて来た。40代50代の人が多い。肌が真黒い。正社員は若干であとは日雇いで保険がきかない。坑内は丸太を組合わせただけで今だにスコップとつるはしで全てやってる。地面がボタでできている。靴をはいてても熱くて10分と立っていられない。

⑩ 牛深市

畑仕事で汚れた太い左右の指にそれぞれの指輪が4個「これは1番上の娘 これは2番目の娘が買ってくれた。こっちのはXXさんが旅行のみやげに買ってきてくれた。だけどじいさんはこんな気のきいた物はくれない」といいながらカマを振り回してケラケラ笑う。

⑪ 魚貫（オンキ）

2番目の娘（19才）が直立不動で食い込るようにシャッターの音を待っている。凝り固まっているような眼をして話しかけていっても表情があまり現われない。ボソボソと答えたあとはただじっとしている。

社宅が立ち並んでいる辺りはひっそりとして赤、黄、緑に塗りわけられた社宅の瓦屋根が幾重にも連なりドロンとしたよどんだ空気の中に浮いて見える。

⑫ 大江

長崎で生まれたバアさん
家は2年前建ててもらった4畳半と板間に住んでいる。[illegible]のじゃばん下は腰巻きだけの海で板間は囲炉裏とプロパンガスのコンロ他にナベ、かまなどがめちゃくちゃにつんである。
その人の素わんはひびが入り右みゝは かりといた。
畳の間は押し入れがあるが畳の上にはぼろぼろの布団が積んであった。
西側の海岸線は山々に海がせまり細い曲りくねった道路がそれにそって続いている。畑と山との右間などに小さな部落があり半農半漁が多い。

⑬ 崎津

山が海にすぐ迫り畑はほとんどない。漁港だが魚の生臭いにおいはほとんどしない。
海添いの家々のかたまりの中にヒョコンと灰色っぽい教会がつき出している。

＊ 島原、天草の乱 此後逃げて来たキリシタンがここに住みついて隠れ住んでいた。百年以上してからその事が発覚し調査など行なわれたが江戸の島原、天草の乱が起こることを恐れ藩は緊張し続けた

⑭ 村岡伊平治

それにしても人口過剰などの事情に苦しんだことはそれなりに理解できるが なぜわれ
せたちが むしろ男子に生んじて南へ北へと渡って行った行為の異常さを説明しつくすことはできない。
ここ東洋一円の総元締として君臨した村岡伊平治の存在がある。慶応3年島原に生まれる。13才の時父が死に家は没落。明治13年長崎に出る。弟妹6人と母と妻と8人をかかえ昼夜働いたが生活の貧困は変らなかった。その頃上海・香港など各地で行商でもうける話を聞き外国への夢を

いだいた。香港を皮切りに 天津・上海へと流れて
いった。 その各地で 大陸奥地の町々にまで送られて
いる多くの日本の女のあることを知り [redacted]
アモイで女ども人を救出した。 女衒世話人と救出
の際の賠償をとりもどそうと香港・シンガポール・ハノイ
の各地の女部屋にわたりをつけここに女衒稼業に
のり出すに至った。 M.22年(1889) シンガポールに女部屋
を経営 さらに誘拐者の宿元をすることに目をつけ
[redacted] 前科者の集団 村岡伊平治誘拐団を発足
するのであった

ある日伊平治は皆を集め一場の訓示をした。
「オレが諸君に言いたいのは 諸君が生まれ
ながらにして日本国民として国家に仇をなし
国民性を失い 身をきちくずして尊い祖先の墓に
足を踏み入れることもできぬ人間になりさがっていること
である。おれはそのことをまことに不憫に思うのである。
そこでおれは諸君がいま一度りっぱな日本国民に
なり国家を築き上げる大事業にたずさわり一人
でも多く国家のために御奉公する人間になることを願
うのである。」 改心のため所行に出て立ち人と
誓い合った この集団を引きつれ伊平治は明治
22-7年のわずか5年の間にシンガポールで手が
けた数だけでも実に合計3222人の多きにのぼり
これ以外に伊平治の手をへなかった女を合わせると
5000人をこえる。南洋諸島として女部屋を開くことに
国家的見地から意義を認めた。伊平治の手記の
一節で 女は国元に手紙を出し毎月送金する。父母
も安心して近所の評判になる。すると村長が来て
所得税を掛けてくる。国家にどれだけ役になる
かわからない。我だけでなく世家の祝福に
なる。そればかりでなく どんな南洋の田舎の地
でも そこに女部屋ができるとすぐ雑貨屋ができる。
日本から店員がくる。その店員が独立して開業する。
会社が出張所を出す。女部屋の主人もピンプと
呼ばれるのが嫌で商売を経営する [redacted] で
その土地の開発者が増えてくる。やがて日本の船
が着くようになる, とより具体的に記されている。
19世紀後半日本帝国主義の南方植民地政策
は [redacted] に押し進められ, ここに先駆として国家から
はじき出された一明治人がみずからは欲望の

おもむくままに人の血を吸って生きながらも、激化もち続けた国家主義と利欲とはまさに合一した。国家と伊平治の利欲に塗りつぶされたこの南洋諸島のかげにあるもっともいたましい犠牲者「母」たちのおくろが累々と横たわっている事実をだれも気づかなかったようである。

平戸

⑭ 平戸 治さいさん

いつも陽の当たらない奥の部屋に居る台所とその部屋の間の柱に 4月 誰々来，4月誰々去，4月誰々去と書いた黒柱をぶらさげてある。「子供の頃 学校の先生は外国へ行けとさかんに教えていた。日本が発展するには国家主義が一番もうかる，土人はおろおろで 人バカじゃけん 金はなんぼでも もうかりよったとですよ」 おじさんも金もうけしたかったとですかと聞くと「それが当り前のことじゃったばってん」それに倣しきれんと外国で成功しなかった」「今の平戸の人は人間がこまくってバカばっかりじゃ」という。〔七夕のたんざくにカラーテレビとか冷蔵庫とか書いてある〕

生月島(注5)

⑮ <古江の老夫婦>

一番うれしかったのは娘が高校を卒業した時で苦労した生活の中でいつも考えていたのは娘の事だと言い，又足を怪我して一週間働けなかった時，芋とほんの少しの塩で暮らしていた，その時の塩のおいしさが今でも忘れられないと言い，又婆さんは貧しさのあまり泣いたこともあった。

娘が高校に行っている時かぼんやりがたがたでズックはパカッと口があいたまま学校に通い娘は回りから言われたことを帰ってから私に言う，又近所でも高校に入れる位だから金を持っているんだろうとか言われてくやしくて，くやしくて意地になって頑張ったとその時の気持をぐっとおしこめたように言ってくる。オリンピックの時，近所がテレビを買ってもテレビが無くて娘がテレビを見たいと言うので5円握らせて電気屋さんかどこかに行ってお店で30分位見てもらいに行った。

⑯ <大瀬のおばさん>

45～6才のおばさんが三枚のたな糸の[illegible]をきれいに切り取っている。子供が8人で上の4人は

17 端島

島の回りの海は赤茶けすごくにごっている
外から見るとコンクリートの断ガイでひびが入っていたり、よごれたかんじがすさまじい。島を回るのに10分程でコンクリートのアパートそれが湿ったこつごつした感じである。整理されているというより粗雑に置いてあるという感じ。(炊事場、洗たく場)
樹1本もはえていない島　8階も9階もあるコンクリートの建物がざっしりと建っている島。海の中の恐しい監獄島ー三菱端島炭鉱「追われていく抗夫たち」
『いいかここへ来たが最後ハンコ(無断の職場離脱)も許さん。口返答も許さん会社が認める公傷以外の欠勤も許さん。万一それに背いたら容赦なくこの私棒上に吊るし上げるぞ。そしてこのエイガンチョウ(毒針のついた赤エイの長いシッポ)で死ぬまでぶったたかれるんだ。覚悟しておけ』
『ひとたび穴の中に投げこまれたが最後二度と再び地上にでることのできない男たち……。なくなってゆく自分たちの運命と考えるごとにあかみじめな抗夫男達の姿がまざまざと蘇ってくるのです。　今年の2月に閉山しその後炭坑に再就職した者はいなく他の者は、関東関西、九州などにきました。　熊本で就職した男が生活苦により自殺(1月300円の生活費で生活していた人達が島の外に出るのだ。)

18 高島

坑内で死ぬ人間は多かった一日もこうじゃと思えば
坑夫一本悟しくて柱のささえもせんでおく、落盤やらガス爆発はもうしょっちゅうありましたよ
今みたいに新聞やチラシで騒ぎ立てやしませんよ、栄養失調で死んだのも多いです。あんな穴で死ぬまで働かすんですから……。暗い坑の底で……。」
☆日本帝国主義は侵略戦争を遂行する為に1939～45年間だけでも100万人以上の同胞を強制的に日本にかりたてた、さらに軍人軍属として3万も戦線に動員したが、朝鮮

内に動員した、485万と合わせると実に600万を越える。

『ぶったたきおったばい、人縛りが。日本人もたたくけどそれより朝鮮をひどくなぐるばい、むげないごった。ステッキで叩きよった。血が噴き出るばい。食うもんもろくろくなかとに、ひょうひょうと歩きよると、こら！というで叩くとじゃけ。朝鮮は戦時中は食べもん無しじゃ。はキュウリを丸ごとなりで本くらい食べよった。それだけ朝は弱々でよろよろしてった。帰ばかりになってのむげなかったばい』

「或は五島に新炭坑を発見した人夫を呼すると唱え、あるいは何時義何工業と唱道して、坊みに無知の貧しいかたがた三円五円の金を以って男子を雇ひ入れ、明治大の汽笛一声畑を捨して孤島に連れ来り、遂に性涯郷里を見ることは能はざらしむ。あゝ日本国内にこの島あり、この島人あり、天日の明光なる土を照らし、この民を救はざるは何ぞや」

「明治17年の夏頃にコレラ病の侵入するや、三名の坑夫中その大半すなわち千五百余名は該病の為に死せんと欲りて炭礦舎はその死する者といまに死せざる者とを問わず発病より1日を経ればこれを海上におくり大鉄板上において五人もしくは十人ずつ焼せり。」

高島は周囲1km。人口が1万七4人、戸数4337戸うち鉱業関係者3600戸農業漁業もわずかに居るがみんなが三菱鉱業高島鉱業所で生活しているということになる。そんな小さな島に鉄筋6階立てのアパートが60棟もひしめいて、アパートしか目に入らない。

日露戦争の流れ坑夫を集めた炭坑で、船着場と反対側の入江に、三軒一棟のアパートが斜面にへばりついた様にあって低くて薄い感じである。そしてマッチ箱を置いた様にとってつけた感じで6階建てのビルが建っている。

畑が続く.

(F) く 戸岐何,

赤茶けた土の中に町がはりついている. [illegible] 温もなく ただ単調な中にある. 作りかけた橋も もうすでに てしまった. 廃虚の ようだ.

畑を作っていない 今 雨が降ると 背後 切り立ったがけから すぐに土砂が家の縁まで 流れ出ている. 兄さんが 戦争中 食うものがなく マイトで岩をぶちこわし 芋畑 作ったことや 在郷軍人が堂崎のキリシタンに焼かれた話を もう一人で立っているのもつらいように 下駄箱にもたれかかって話す. 淡々と. そのとなりの部屋では 中学と高校へ通っている姉妹が何度も何度も同じ歌をくり返しわすれた.

〔注1〕 長崎へのアプローチ

五島列島 は九州の最西端にあって 大小150余りの島で構成され その面積は 63.634Km² 長崎の1/6に相当する. 総人口は約15万 島民の大半は漁業 牛魚によって生計を立てている. 名産は「五島イカ」西海国立公園を随所に持ち その美しい肌に隠れ キリシタンの迫害と忍従の悲惨な歴史を深く刻み込んでいる. と

まず五島列島を紹介しておきます.

僕が島を訪れたのは 観光目的でも 隠れキリシタンの実態調査でもないということは昨年の雑誌 6月号に掲載された document 1961, 62 Nagasaki を御覧になった読者は おわかりになると思いますが はじめてご覧になる方の為に 僕自身の Nagasaki へのアプローチを ひと口で説明しますと 「原爆への恐怖が恐りに その痛苦が反逆にエネルギー転換する」過程を 対象の中で試され, 変わっていく 僕自身を通して冷静にみつめるとでもいいましょうか.

つまり 僕自身を証明することによって時代を告発することです. Nagasaki は僕にとって "上り" のないスゴロクの様なもので シジフォスながら毎年振り出しに戻されます. 東松照明より

〔注2〕 島原の乱

島原では 16世紀中頃 に ロハ津を中心とキリスト教の伝道が開始されたが 領主 松倉氏は キリシタンを弾圧 迫害した. 火煙たちこめる 雲仙岳の火口で硫黄のガスが鼻孔をさす地獄谷の池に裸でたたせ 背中をたち

割りて その傷口に熱湯をそそこ込んだり煮える池のなかに身体を沈めこませたりした。また、毎年凶作が続き農民はその日の食物にも困窮し到底堪えられない程の多額の租税を強いられることを訴えるに及んで生命をつなぐより他はなくなった。餓死者も出る程だった。1636年ついに島原南目地区は全村をあげて決起し、これに応じて天草でも蜂起し合流した3万人(女・子供・老人が半数)は原城に籠城した。対して幕府軍は12万5千人の兵を以て包囲し、兵糧攻めの後、皆殺しにし、老人・女・子供も全員処刑され、塩に投げ込まれ死人で埋まるほどであった。かくして島原南目は無人地帯となった。島原藩の財政の7割は南目だけが村によっていたので移民を行なうことが緊急のこととされ、幕府は諸藩に強制移民を命じた。瀬戸内の小豆島ではくじ引きで移民を決定し、種子島では4戸13人を移民させた記録が残っている。耕地の少ない島々の住民が島原移民に選ばれたのである。

1613	家康 禁教令発布
1624	島原雲仙岳 大虐殺
1627 29	島原・天草大弾圧 キリシタンを雲仙岳の熱湯に投ずる ↕キリシタン虐殺
1634	才2次 鎖国令発布 天草大凶作
1635	才3次 〃
1636	才4次 〃
	島原の乱・天草蜂起
1638	原城陥落

〔注3〕 からゆきさん

天草島内はいたるところ山また山の連続であり、しかもそれらにはこれぞという高峰はないがいずれも急斜面であるために大きな川もなく したがって平地が極めて少ないため面積の広大なわりには耕地が乏しい。こうした地理的悪条件は人口過剰をきたし 近世以来さまざまな社会的 経済的な問題を引きおこしてきたこと 幕府直轄領となってから島原地に移住人を はじめ多くの流人が

こまれてきたことや 宗門改めの制度によって離島
伝出が比較的困難であったこと
また間引きなどによる人為的制限があまり行なわれ
なかったこと これらの人口過剰によってかもし出
された 深刻な困窮と 社会不安とは好むと好まざ
るとにかかわらず結局他国への出稼ぎという手段に
よって緩和されなければならなかった。
こうして江戸時代の中ごろから他国への出稼ぎが
現われ出したのである そしてそれらの大部分は
当時日本でただ一つ外国貿易港として都会的な条件
を備えていた長崎へ 長崎へと集中し いわゆる長崎
奉公は年を追って盛んとなっていった。
長崎が 開港場と なってからは ますます国際
都市に なり海外との 往来も 活発に なってき
た。こうして海外との往来が盛んになってくると
すでに慶応の頃から長崎に奉公中の天草の女たち
の中には 海外へ渡航するものが現われてきた。そ
れらの婦女子は オランダ船や イギリス船 ロシア
船 などによって誘拐され 海外へ連れ去られた。
これら海外流浪の日本の女たちの一例としてコー
ランポー(マレー半島)での塩売おとよ婆さん
の話があげられる
このおとよ婆さんはシンガポール地方の草分け
で 土人の間には警察官以上の勢力をもちこの
地方の事情にも非常に明るく邦人の間では「お
とよ婆さん」とよばれた名物婆さんであった
彼女は長崎に居留していたイギリス人の子守
りにやとわれていたが主人一家に伴われてシン
ガポールに渡り ノゲランで土候王族の内縁の
妻になったのだという。おとよ婆さんが日本を
離れたのは 東京がまだ江戸と呼ばれていたこ
ろであったという。これはしかし薄運にまき
込まれた実例にすぎない。
病床に死されて歩行が 不可能 になっても
仁丹くらいしか与えられなかった話、苦しさに
耐えかねて逃げだしたため雇主の中国人に裸に
され町辻にされたあげく陰部に斬をさし込まれ
て殺された女 また蘭領スマトラのメーザン村
では M22年ごろ おかよ婆さんという女が土人
相手に女郎屋を開いていたが そこの女は

片目とかせむし 瞬まわり ちんば一寸法師と言った不具者であり また女のうち幾人かは60才近くの老婆 近くの子であったことなども記録に残っているのである。
このようにして 生涯ついにあたたかい私いの手をさしのべることなく 要因の辺土に名を とどめる
年塔婆の山を築いた女たちは想像を絶する程哀しれなかった。島原に 昔からうたわれている歌

姉しゃんな どけ行ったううかい
姉しゃんな どけ行ったううかい
青煙突のバッタンフン
唐は何処 ヨぬけ
唐は何処 ンぬけ
海の果てばよ ショウカイ
早よ寝ろ泣かんで オロロンバイ
オロロン オロロン オロロンバイ

〔注4〕 五島カクレキリシタン

下五島の久賀島は鎖国禁教令が出るまでは多くの信者を出した島であるが惨憺たる迫害の嵐にほとんど根絶されてしまった。
市川木の部落のごときはそのたびに住民が絶えたびたび松林と化したと言われる。
その後大村藩では明暦3年(1657)の「郡くずれ」など相次ぐ逮捕によってあまたの信者の血が流され信仰が捨てられ最後まで潜伏し続けたのは外海地方のうち出津・黒崎を中心とした地域とほかに数ヶ所だけになった。この地方は大村領と佐賀領とが入り込んでいたが大村領はかつてキリシタンが栄んだところだけに その弾圧もきびしく そこに潜伏するキリシタンたちは絵踏・宗門改をはじめ厳しい禁制の中で物心両面の苦難に耐えた。大村藩が過剰人口を抑制する為に行なった強制間引には常に心を苦しめていた。キリシタンたちは間引きを重大な殺人罪と心得ていた

五島五島へと皆行きたがる
五島やさしさ土地まで
五島極楽 行くみりゃ地獄
三度と行くまい 五島の島

しかし よい魚場のある海々や豊かな農地を持つ村々はすでに五島の領民が占居している。
移住民が居付いたのは山間僻地のやせ土地 舟つき場つき場も無い孤島が多かった。この様な立地条件の悪さはおのずから社会的経済的困窮となって土地の人々(地下の人々)の軽侮を受けることになる。
移住者たちは「居付き」という呼称でよばれ土地の利には恵まれず人々からは蔑視される。「五島は極楽行ってみりゃ地獄」彼らの悲痛な気持ちを吐露したのである。

〔三5〕　平戸　生月

生月では信仰の自由が認められて しばらくたった M16年頃 島民の9割をしめるといわれる旧キリシタンが カトリックに公然と復活することを恐れた僧侶神主たちは もともとキリシタンでない有力者たちを動かして 次ぎの条件にわたるとり決めを行って村八分とした

1 キリシタンには共同井戸を使わせない
2 親族の間でも出入をさせない
3 嫁のやりとり 養子縁組はできない
4 船宿の集合いを許さない
5 渡海船の船頭になることが出来ない
6 共船して藻をとらせない
7 池水もやらない 田地とり上げる
8 紺屋をすることが出来ない
9 日傭かせぎに使ってやらない
10 屋根葺きを共同で出来ない
11 造り酒のとうじに使ってやらない
12 出かせぎ奉公に世話したり使ってはならない
13 浦人の肥料をくませてやらない
14 原野に放牧をさせない

いずれにしても よそ者には自分達の集団とはっきりとし対抗意識を持っていた しかもキリシタンが多数をこの島では五島のキリシタンの少数のむれとは違って多少とも異教徒の圧迫をはね返す力を持っていたので

しかし、獅子 根獅子は平戸・生月両島の他の地と比べても 外部との通婚が少ないし、同族結婚によるかたわが生まれている例もある。
その暗い土間にたたずむことしか与えられなかった若い主婦は そこでひっそりと歌う「獅子の泣き歌」

獅子の泣き歌ばヨウ
仏の前でヨウ
一つ歌えば供養になるヨウ
獅子の小島はヨウ
千尋立つかヨウ

年代	日本史	キリスト教	炭鉱・三菱・朝鮮人	市史備考
1540				
`43	ポルトガル船種子島漂着			
`49	ザビエル鹿児島へ来る	ザビエル平戸来航 （宣教師渡来）		
1550				
		'54 島原に信者1500人		
1560				
		'63 ロノ津伝道		
		'66 五島・福江伝道		'62 大村氏　治外法権を認める
		'67 長崎布教		
1570				'70 ポルトガル船長崎入港 ［長崎開港］
	信長・安土城を築く			
		'79 イエズス会・ヴァリアーノ ロノ津来航		
		島原を中心に宣教活動が行われる		
1580	秀吉・大阪城　入城	ローマ法王へ使者派遣		'80 長崎・浦上・茂木の地をイエズス会に寄進 以後88年までイエズス会支配下におかれる
'87	秀吉・宣教師追放令 公布	宣教活動が武士層から農民層へと 浸透する契機となった		'88 長崎を公領とする 長崎奉行を置く （長崎奉行職は幕末まで常置された）
	神国日本における「邪宗」と規定 以後数百年に及ぶ思想統制の元となった		政治的弾圧はじまる	
1590	刀狩・検地			各地に散らばっていた遊女屋を 集めて遊郭とする　（丸山）
		'97 日本二十六聖人殉教（最初の殉教）		
		'99 平戸キリシタン追放		
1600	関が原の合戦	長崎の人口5万人のうち ほとんどがキリシタン		
`13	家康　禁教令発布			長崎の教会堂を破壊
	大規模な追放弾圧が始まる			外国商館移転
		信者の国外追放 ⟹	ジャワ・ルソン （＊ジャガタラ文）	貿易船限定
1620		'22 長崎でキリシタン55人処刑		
	島原　雲仙岳	'24 大村領内キリシタン禁制		
	キリシタン虐殺	'26 長崎で最初の絵踏み行う		
		'27 天草・島原　大弾圧		
		キリシタンを温泉岳の熱湯に投ずる		
		'31		
			天草・島原地方大凶作	
1630	第二，三，四次 鎖国令発布	'37 島原の乱		'36 出島を構築 ポルトガル人を隔離
		'38 原城陥落		
`39	第6次鎖国令 鎖国の完成			

年代	日本史	キリスト教	炭鉱・三菱・朝鮮人	市史備考
1650		`55 大村キリシタン56人島原で処刑		
		`57 郡崩れ （大村のキリシタン600余人捕らわれる））		
			`63 長崎大火 （町造り始まる）	
1670		`71 大村藩、百姓の田畑売買を許可 （人間の入れ変えを進める）		
1680	キリシタン禁制の高札を 全国に立てる	`80 転びキリシタンと類族を改める		
			`89 唐人屋敷完成 市内に散在していた中国人を 1ヶ所に集める （出入り口ヵ所）	
1700	享保の改革		`07 島原の検地	
	農民一揆しきりに起こる		島原百姓一揆 諫早百姓一揆	
1780			`82 大村藩松島炭鉱 開発	
1790		`90 浦上一番崩れ		～ 「五島へ五島へと皆行きたがる。 五島やさしや、土地までも」
		`97 西彼杵郡外海　黒崎、三重の両村から108人が 福江に渡り以後続々と約3,000人が五島へ渡った 隠れキリシタンの移住		外海地方の唄 「五島極楽来てみて地獄、 二度と行くまい五島が島」
1800			北松炭田開発	
	天保の大飢饉			
		`42 浦上二番崩れ		外国船つぎつぎと長崎へ入港
1850 `53	ペリー浦賀来航			
		`56 浦上三番崩れ 絵踏み廃止	`57 飽の浦に長崎 製鉄所建設	
1860 `67	王政復古 明治維新	`65 浦上四番崩れ		
		`68 浦上キリシタン配流 五島久賀島・牢屋の窄	高島炭坑 （グラバー経営）	坑夫を徹底的にしぼりあげ 巨額の富を作った
1870		浦上キリシタン3,000人を捕らえ 21藩に流刑		～金でかためた　グラバさんの 納屋も一つ間違やみな殺し 「高島節」
`72	徴兵令発布 富国強兵 屯田制度	（最後のキリシタン大弾圧）	高島で大暴動 （2,000人）	
		`73 浦上キリシタン1,983人釈放	天皇長崎造船所 巡視	
			高島暴動（400人）	
`77	西南の役		`78 高島暴動（2000人） 100余人捕まる	

年代	日本史	唐行（キリシタン）	炭坑・三菱	市史	備考
	海軍 外国 進主 出義	`78 政府が九州産炭を口之津港より直接海外へ 輸出することを許可 このころから売春婦として石炭船で海外へ売られて いくようになる　（唐行さん）			
`74	自由民権運動起こる	（天草　島原） 口ノ津港	`81 高島炭坑　三菱払下げ		
	鹿鳴館時代				
`84	秩父事件	東南アジア	`83 三池炭坑で三池集治監の使用し始める		
`85	天津条約調印	清国各地・安南・シンガポールに 売春婦増加（上海で800人） 婦女売買人暗躍　問題となる	長崎造船所　三菱払下げ		
`89	大日本帝国憲法 発布				
		`90 長崎から香港に入港した伏木丸の船内機関室より、密航中の 売春婦、婦女売買者8人の窒息死体が発見される.			
		`92 長崎県が婦女売買など目的不良のため 海外渡航を認めなかった者 男18・女20人			
`94	日清戦争			`94 連合艦隊　佐世保より出撃	
			`97 端島炭坑　坑夫800人 施設の改善を要求してスト 高島炭坑暴動（700人）	歩兵第46連隊が大村に移駐	
				`98 長崎を要塞地区に指定	
1902	日英同盟		大正天皇（皇太子）長崎 造船所に立ち寄る		
`04	日露戦争		`06 高島炭坑ガス爆発 （250人余死亡）		*「君死にたもう事なかれ」 発表
	社会主義思想の弾圧		`08 三菱従業員1万人を突破 （払下げ当時の11倍）	足尾、夕張、幌内 生野、別子　暴動	
	労働争議・鉱山を中心に急増 （明治期最高）		同年不況のため3300 余名解雇	谷中村強制破壊	
`10	大逆事件				*時代閉塞の状況
	韓国併合	朝鮮占領 朝鮮の土地が日本人地主の所有になり、 土地を奪われ国外へと追われる運命を 負わされた			
`14	第一次世界大戦			`13 島原鉄道開通	
		安価な植民地労働力を要求して朝鮮人の移入が盛んになる			

年代	日本史	朝鮮人・原爆	炭坑：三菱	市史備考
1917			長崎三菱造船所ストライキ（1万2千人）	
			松島炭坑火災（死者50人）	
			三菱造船・製鉄株式会社開業	
1920	戦後恐慌			
	八幡製鉄2万3千人のストライキ		今上天皇（皇太子）長崎造船所に立ち寄る	
		溶鉱炉の火をおとす	戦艦「土佐」に第一鋲を打つ	
	大正デモクラシー			
			香焼炭坑暴動	
		朝鮮人の無制限導入始まる	三菱・戦艦「あおば」竣工	
`23	関東大震災			
	朝鮮人暴動の流言	数千人が殺される		
			三菱・戦艦「はぐろ」	
`25		`25	重巡洋艦「古鷹」竣工	
`29	世界恐慌			
1930				
`31	満州事変			
	アジア大陸侵略へ	`35	三菱長崎造船所東洋一となる	
	5.15事件			
`36	2.26事件	炭坑・鉱山・土建業に強制連行される		
`38	国家総動員法公布		三菱「武蔵」起工	
			特務艦・駆逐艦建造あいつぐ	
1939	第二次世界大戦	強制連行		
		福岡県 6780名		
		長崎県 2920名		
1940	ハワイ真珠湾空襲			
	東条内閣	この間の強制連行の総数は100万人以上に及んだ		
`43	第一回学徒出陣		三菱重工業軍需会社に指定	長崎空襲
	女子挺身隊動員	`44 崎戸 43人 高島、端島105人連行される	回天製作	
`45	東京大空襲			長崎3回空襲
		カラフトより崎戸へ数千人が移動させられた		
	8.6広島原爆投下			
	8.9長崎原爆投下			8.9原爆投下
				*9.3 〈ノーモアヒロシマ〉打電
	日本無条件降伏			
1946	日本国憲法発布		`46	白血病患者 広島、長崎に出始める

'74夏 8.6-9広島・長崎集団撮影行動アピール

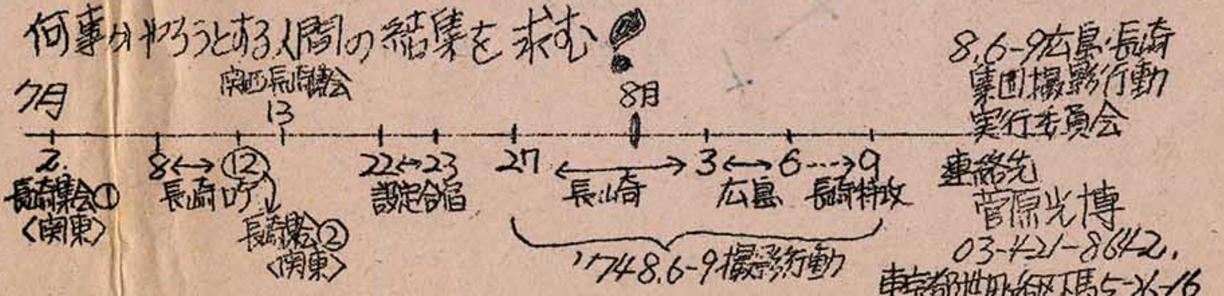
70年以降人間が何事かを起そうとする基盤が地すべり的に崩壊し、個は分断され、声はかきけされ、その存在は奇妙な明るさと行きつきさきの無い"自由"の中で空中分解の様を呈している。大学写真サークル内においても、自分の力で現実に対し何の意志も決定も思考を持ちえず自分という小さなからの中に閉じこもり、まるで幼児の如く自分を甘やかしている人間があふれる。こんな中で我々はまわりの世界に対し感じる事何だろうと疑問を持つ事、そしてそれらの物事にぶつかりつかんでいく行為からしか何事もうみだすことはできない。'74年夏、日本中に、そしてサークルに充満するこの状態に対し我々は何をやればよいのか?

我々は'72年以降この時代状況に対し、人間の生を奪還すべく8.6-広島、8.9長崎に対し集団で生の基盤を構築した。

広島……戦後30年原爆焦土に巨大な近代中間都市として復興した広島は、その重く深い事実を跡形も無く消し去り平和と繁栄をむさぼる巨大な怪物と化している。街にあふれる被爆当時の写真は逆に復興という美名に利用され、又、被爆者達が焼野ヶ原に自分達の手でつくってきた街基町はその美感をそこなうというだけで鉄キン高層アパートのコンクリートの壁の中におしこめられ、彼らは生活の場をおわれていく。しかし一度地面を掘れば以島から当時の死がいを焼きつくした白骨が出現しまだ数多くのしかばねがその土にねむる。都市広島は自らのケロイドを背に負い平和の虚色をよそおう。我々は広島での行為をここで終えることなく、等質に被爆の事実を背におわされその被爆地長崎にそのほこ先をむけた。長崎はその三百年の歴史の内に被爆の事実すらのみこむ程に深く日本の底流へと流れこむ。隠れキリシタン・カラコさん炭鉱・軍需産業―三菱、今なお生を束縛されおいつめられる朝鮮人これらのことが複雑に交ざりいくえにも長崎の街に複層する。昨年我々は長崎のあらたなる視点をみいだすべく島へと島から長崎をみようとした。海外侵略の先兵として貧しい土地ゆえにその身をゆだねる遠く東南アジアへ身を沈めた唐行さんの生き様、彼女に刻まれた暗い過去は我々に強じんなカラッとした生としてうつる。否定されし歪曲されたりけれども今なお日常の中にマリア様・魂という言葉を大切に持ち得るかくれキリシタン。

このような出合いは、繁栄と平和の中の物質文明がいったい何なのか我々の生をどうもつのかを問いかける。長崎の岩盤に向う我々は更に深く潜行しなければならぬ。

'74年夏我々は自らの生の行為を確実につかみ更に大きく越えるべく8.6-9広島・長崎集団撮影行動を提起する。全国各地の連盟・サークルの主体的な参加―この夏、何事かやろうとする人間の結集を求む!



立女. 早稲田.